広報おうしゅう
Vol. 157
■発行日／平成31年3月14日 ■発行／奥州市 〒023-8501 奥州市水沢大手町一丁目一 ■電話／0197㉔2111 ■印刷／鈴木印刷㈱

1本堂北側墓所の奥側。歴代当主とその正室・側室の墓石の他、水沢地域で最も古い銘を持つ石灯篭が並ぶ　2同手前側。新しい時期の歴代当主夫妻の墓である尖頭角柱形の墓石と、子息女の墓である自然石の墓石が多い　3改葬前の旧西側墓地の様相。変形櫛形の墓石が並んでいた　4頂部左右に切れ込みがある変形櫛形の墓石。古い時期に見られる　5中期に見られる櫛形の墓石

奥州遺産

―ときを越え 受け継がれるもの― 第102回

留守家墓所（大安寺境内）

＝水沢字東町＝

仙台伊達氏一門第三席の家柄で、水沢一万六千石の領主であった水沢伊達（留守）氏。その墓所は市内に二カ所ある。日高神社境内に初代宗利と二代宗直の墓が、そして留守家の菩提寺である大安寺境内には三代宗景と五代村景から十三代基治までの墓があり、一括して市指定史跡となっている。

大安寺境内はかつて本堂東側に三代、西側に六～八代、北側に五代と九代以降の墓石が配置されていたが、現在は正室・側室・殉職者などの墓石と共に北側一カ所にまとめられている。

歴代当主夫妻の墓石は高さ2㍍を超える大型のものが多く、その形は変形櫛形から櫛形、尖頭角柱形と時代によって移り変わっている。対して子息女や殉死者は一貫して一般の墓所に見られる不定形の自然石が用いられており、留守家内での階層の差が見られる。

大名級石高を誇った武士の墓所は、今日も静かにこの地を見守っている。

広　告

◉広告の問い合わせは、㈱東広社（☎ 0197 ㊸ 1523）